



基本理念

愛媛大学は、大学憲章において、地域の発展を牽引する人材、グローバルな視野で社会に貢献する人材の養成を使命としており、この理念のもと、持続的発展が可能な環境配慮型社会の構築のため、環境問題にかかわる教育や研究に積極的に取り組みます。

また、愛媛大学は、人類社会の持続的な発展に寄与するため、環境について責任ある行動を取るとともに、地域の環境問題の解決に貢献します。

この決意のもとに、以下に具体的な基本方針を定めます。

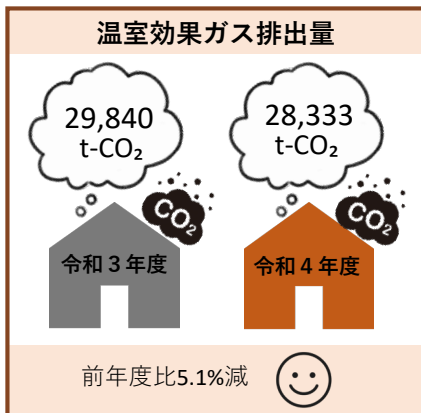
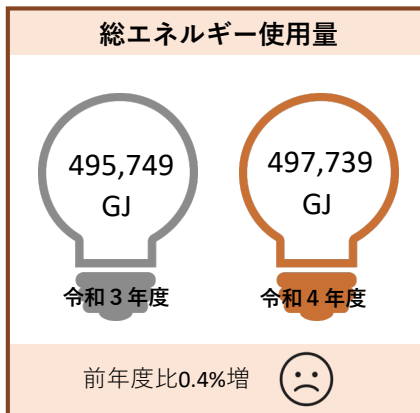
基本方針

1. 社会との調和を図りつつ、環境問題に積極的に取り組む人材を育成します。
2. 環境を主題とする学術研究を推進します。
3. 環境にかかわる知識と技術を地域に提供するとともに、地域社会の発展に貢献します。
4. 大学で営まれる諸活動において、環境にかかわる法令の遵守に努めます。
5. 省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化および化学物質の適正管理などにより、環境汚染の予防と継続的な環境改善を行います。
6. 教職員および学生が協力して良好な学内環境を構築し、地球環境に配慮するように努めます。



環境配慮への取り組み 環境負荷低減

総エネルギー投入量及び温室効果ガス排出量



愛媛大学は、エネルギー使用量・温室効果ガス排出量を対前年度比1%以上の削減に努めています。

環境報告書の本編は、愛媛大学HPに掲載していますので、是非ご覧ください。
<https://www.ehime-u.ac.jp/information/environment/>

発行：2023年9月
愛媛大学施設基盤部安全環境課環境管理チーム
kankyou@stu.ehime-u.ac.jp

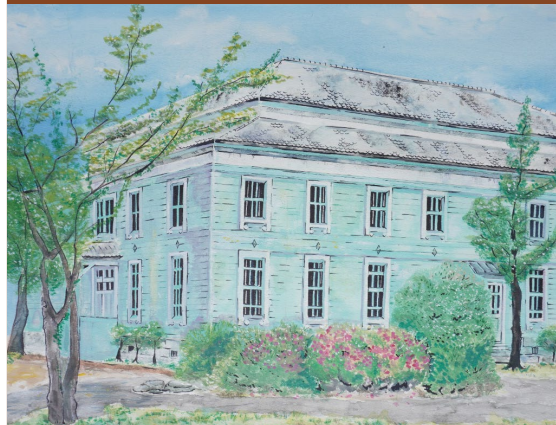


環境報告書 2023

Environmental Report

国立大学法人愛媛大学

EHIME UNIVERSITY



学長あいさつ

愛媛大学は、第4期中期目標期間において、「地域を牽引し、グローバルな視野で社会に貢献する教育・研究・社会活動を展開する」というビジョンを掲げ、さまざまな活動を展開しています。組織的には、それぞれの学術領域の教育研究を担う7つの学部と、地域にある大学としての機能を担う4つの機構(教育・学生支援、先端研究・学術推進、社会連携推進、国際連携推進)とによって、地方大学の役割を果たしています。

現在、少子化による人口減少、地球環境問題の深刻化という中長期的課題に加えて、頻発かつ激甚化する自然災害、新型コロナウイルス感染症など、本質的かつ深刻な問題が私たちの前に立ちはだかっています。また、ロシアによるウクライナ侵攻によって、人々は「21世紀にもこんなことが起こるのだ」と憤り、そして、平和や人権、民主主義など「世界が共有できるはずだった価値観」が失われつつあります。今後、人類は、「Sustainable(持続可能)な社会」「Resilientな(復元力のある)地域社会」を早急に構築する必要があります。そのためにも、私たちは、SDGs、DX(デジタルトランスフォーメーション)、カーボンニュートラル、ジェンダー平等などに取り組む必要があります。

さて、本学は2050年カーボン・ニュートラル、脱炭素社会の実現に貢献すべく、令和5年4月1日付で全学組織として「カーボンニュートラル推進室」を設置し、「SDGs推進室」とも連携しながら、キャンパスのゼロカーボン化、地域のゼロカーボン化を推進しています。

そして、これからは「学生中心の大学」「地域とともに輝く大学」「世界とつながる大学」を基本理念に、愛媛県内各地域との連携を拡充し、地球問題への対策をはじめとして、地域の様々な課題解決に向けた取り組みを続けていきたいと考えております。

本報告書は、本学での様々な環境配慮の取り組みを、環境教育・環境研究・環境活動に分けて総括し、1年間の成果をまとめたものです。本報告書を通じて、本学の環境配慮へのアプローチについて、ご理解いただければ幸いです。



国立大学法人 愛媛大学

学長 仁科 弘重



愛媛大学の環境配慮への取り組み



環境教育プログラム

本学では、「愛媛大学環境方針」において、「持続的発展が可能な環境配慮型社会の構築のため、環境問題にかかわる教育や研究に積極的に取り組みます。」と謳っています。このために令和元年にSDGs推進室及び令和5年にカーボンニュートラル推進室を設置し、教育・研究・管理運営のすべての面での改善に取り組んでいます。

教育・研究の面では、学士課程の共通教育では、学問分野別科目及び主題探究型科目においてそれぞれ「環境学入門」「環境を考える」の授業を実施しています。学部、研究科及び学環それぞれの専門教育においても、以下に示すように広範囲で多岐にわたる環境に関する教育を行っています。

環境に深くかわかる修士課程・博士課程（大学院）	環境に深くかわかる学士課程（学部・学科）	環境にかかわる主な科目	共通教育 発展科目
<ul style="list-style-type: none"> ◆理工学研究科(理学系) → 2専攻 → 3コース ◆理工学研究科(工学系) → 2専攻 → 2コース ◆農学研究科 → 2専攻 → 10コース ◆連合農学研究科 → 3専攻 ◆社会人・留学生 → 3コース 	<ul style="list-style-type: none"> ◆社会共創学部 → 3学科 → 5コース ◆理学部 → 1学科 → 3コース ◆工学部 → 1学科 → 4コース ◆農学部 → 2学科 → 8コース 	<ul style="list-style-type: none"> ◆文系的科目 → 13科目 ◆生物系の科目 → 10科目 ◆生態系の科目 → 13科目 ◆化学系の科目 → 13科目 ◆総合的科目 → 12科目 	<ul style="list-style-type: none"> ◆環境ESD指導者養成に関する科目
			共通教育 教養科目
			<ul style="list-style-type: none"> ◆学問分野別科目「環境学入門」 ◆主題探究型科目「環境を考える」



ECOキャンパスサポーター(ECS)の活動報告

ライブ・アースまつやまへの参加

ECSは本イベントのスタッフとして参加し、設営や受付、会場の片付けなどを行いました。出店団体や出演者のサポート、来場者の対応をしながら、環境保全対策と経済発展の両立、木材チップの使用促進など、環境課題について学び考える機会となりました。



ライブ・アースまつやま

学生祭への参加

使用済み、または、賞味期限が切れた油からアロマキャンドルを作り、来場者に無料で配布しました。もう一つは、ごみ分別指導です。来場所並びに出店団体に、正しくごみを分別してもらうように指導を行いました。



愛媛大学生協の環境活動の取り組み

エコびく企画

昨年で3回目となる「エコびく」は前年度よりもさらにパワーアップさせて大々的に行いました。今年は合計54人の学生が参加してくれました。例年通り参加者をグループに分け、拾ったごみの量を競い合いました。さらに今年はそれだけでなく、人気番組「逃走中」を参考にし、安全のために走ってはいけないという条件のもと、「街を徘徊するハンターに見つからないように、『タバコの吸い殻を15個以上拾え』『ごみ収集所の写真を撮れ』等のミッションをこなしながらごみ拾いを行う」という新ルールを追加しました。企画終了後の参加者アンケートでは100%の満足度を得ることができ、97%の人が「また来たい」と回答してくれました。



ハンターに見つかった！



愛媛大学附属高等学校「理科部」の環境活動

マツカサガイ班の環境活動

マツカサガイをはじめとする淡水性大型二枚貝は、長期の水槽飼育が不可能とされてきました。理科部員が水槽で飼育できる技術を開発したことによって、令和4年度から附属高校理科室は県の保護管理事業の中核施設となり、県内の淡水二枚貝の緊急避難生息域外保全を一手に受け付けています。令和4年度行った中で、最も長かった緊急避難生息域外保全は4ヶ月間です。

プラガールズの環境活動

令和4年度は「松山市の海岸におけるマイクロプラスチック汚染の実態調査」と「海洋性細菌による生分解性プラスチックの経済的生産技術の開発」という二つのテーマに取り組みました。令和3年度までの研究で市販の天日塩中に休眠している海洋性細菌を培養してその菌体内からPHB(ポリヒドロキシ酪酸)を抽出し、PHB製の海洋生分解性プラスチックの合成に成功していました。令和4年度は、高価な市販の培地の代わりに希釈した醤油に砂糖を添加してさまざまな条件を設定する「C/N比改変培養」を試みた結果、PHB生産の大幅なコストダウンに成功しました。



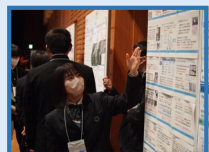
野外調査の風景



個体群の定期調査



生物室での実験



研究のポスター発表



愛媛大学社会連携推進機構が進めるカーボンニュートラル達成に向けた取り組み

カーボンニュートラル 研究拠点形成

研究シーズの知財化や民間との共同研究、ベンチャー企業の創出を目的としている産学連携推進事業の中で、カーボンニュートラル達成やグリーンイノベーションに資するプロジェクト研究開発を公募し、本機構としては初めて支援期間を3年間とする事業で、2件(電熱併給型e-Fuel製造技術の開発、みどりの食料システム2050年達成に向けた愛媛大学アグリカーボンニュートラル研究拠点形成)の提案を採択した。

ゼロカーボンキャンパス化 アイデアコンペティション

本学のゼロカーボンキャンパス化を目的としたカーボンニュートラルの取り組みやアイデアを学内から広く募集したところ、学内の教職員・学生から27件の応募があり、学内外の専門家から構成される審査の後、下記の学生からの提案4つが表彰された。「発電防風壁」「学生・職員全員で協力する『参加型オンライン節電ゲーム』」「愛大自転車登下校発電」「日々の学生生活で行うゼロカーボン化につながるガーデングリ」

公開シンポジウム

カーボンニュートラル達成に向けた公開シンポジウムを開催し、学内外から74名の参加があった。広島大学の俵幸嗣理事から基調講演、大阪大学の原圭史郎教授から特別講演が行われた。また、大王製紙、松山市、愛媛大学の産学官の識者らによる地域およびゼロカーボンの実現に向けたパネルディスカッションが行われ、課題の共有や解決に向けた議論が行われた。



アイデアコンペティションの受賞者

